

d. リサイクル活動

キャンパスライフで
リサイクル&リユース！

【生協店舗・食堂でのエコライフ提案】

生協では、ごみの削減対策としてコンビニで販売するテイクアウト丼や配達弁当のP&Pリサイクルを採用しています。P&Pリサイクルとは、使用済み容器「ミンミリ・リパック」を回収し、同じ容器として再生・再資源化するシステムです。



【エコ・キャンパスライドシステム】

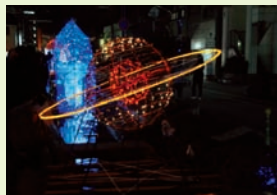
これは、自転車のリユースのことです。回収された放置自転車と卒業時に学生が所有権を放棄した自転車を選別修理して、貸出しています。

e. 社会貢献活動

地域への
貢献！

【地域への貢献活動】

刈谷駅前を彩る「アクアモールイルミネーション」を2010年度も本学美術科の1、2年生の学生有志が制作。これは、駅前商店街と協力した活動で、今回が4年目で、50人余が参加。学生たちは夏休みから企画を話し合い、ミニチュア作りを経て、9月から2ヵ月余かけて学内で制作。今年のテーマは「宇宙」。美術教育の宇納一公教授の助言を受けながら、地球や月、木星、ロケット、天の川など22種類のイルミネーションを金属やネット、木材などを用いて完成させました。



【附属高校「サタデー・ボランティア講座」】

愛教大附属高校は、学校設定科目として「サタデー・ボランティア講座」を、原則土曜日に行い10年目を迎えています。学校教育の中で、「ボランティア活動」を充実した内容で展開するためには、生徒が学校から出て、実際の社会の中で体験的に学ぶことが必要です。そのためには、企画段階から学校外(保護者・地域社会・関係機関等)との協力が不可欠で、地域にある多様な社会資源との連携が、この活動の発展につながります。この「サタデー・ボランティア講座」には、2009年度は221人(全校生徒の約4割)の生徒が履修登録し、年間42回、延べ475人の生徒が参加しました。2010年度も275人の生徒が登録し、活動をしています。



トップメッセージ



愛知教育大学長 松田 正久

愛知教育大学憲章の精神に則り本学の豊かな自然を生かし、人にやさしいキャンパス環境づくりを進め、環境と安全に配慮した持続可能な未来社会実現のための教育研究に努めてきました。国立大学法人としての第二期中期目標(2010-2015)では、キャンパス整備6ヵ年計画を定め、環境配慮型エコキャンパスを創造し、快適な教育・研究環境づくりを進めることとしています。

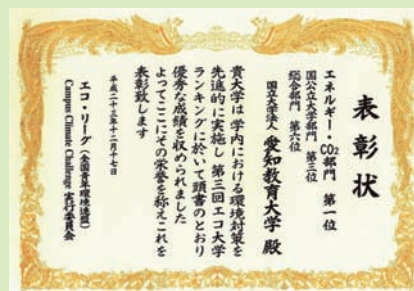
愛教大ならではのエコキャンパスの創造に向けて、「知の力」を出し合おうではありませんか。



愛教大キャンパスでは、さまざまな生き物が生息しています。タヌキの赤ちゃんも生まれました！

第3回エコ大学ランキング エネルギー・CO2部門全国1位

エコ・リーグ(全国青年環境連盟)主催の第3回エコ大学ランキングにて、エネルギー・CO2部門全国1位に選ばれました。(総合順位6位、国立大では3位)



国立大学法人 愛知教育大学
Aichi University of Education
環境報告書 2011 ダイジェスト

国立大学法人 愛知教育大学 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 http://www.aichi-edu.ac.jp
保健環境センター・財務部施設課 TEL 0566-26-2194 (保健環境センター) 0566-26-2152 (施設課)
E-mail: kankyo-h@aeu.ac.jp
デザイン協力: 愛知教育大学 美術教育講座 工芸研究室

ユニバーサルデザインフォントとはUD(年齢・性別や障害に関係なく、あらゆる人が商品・サービス・住居・施設を快適に利用できるように配慮されたデザイン)の視点にもとづいてデザインされた書体です。



この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています

●通常の生活ごみ●

廊下などに設置



建物ごとに設置



クラブ・サークル課外活動から出る廃棄物

学生支援課に
聞いてください



大学祭などから出る
廃棄物

実行委員会に
聞いてください



分別カードを
持ち歩こう！

財布等に入れて、いつでも確認
できるようにしておきましょう。

国立大学法人

愛知教育大学

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

a. 環境に関わる教育・研究

環境分野の
メニューも
充実！

【体験活動を重視した生活科学研究 BI の実践】生活科教育講座 久野 弘幸

生活科は、具体的な経験や活動を通して、身の周りの人や自然や社会と自分がつながっていることに興味を持ち、そのことについて考えていくことを狙いとする教科です。例えば、生活科学研究 BI の授業は、学生とともに作るワークショップ型の授業で、学生らは 5～8 人のグループを編成し、各グループがテーマを定め、他の受講生達に約 60 分で完結するアクティビティを提供し、それぞれのグループの関心や議論によって複数のテーマを複合化したり、絞ったりして課題を設定していきます。



ヨモギを摘んで「よもぎ餅」作りを体験

【牛乳パックから取り出した良質パルプを使ったものづくり】

美術教育講座 樋口 一成

牛乳パックに使われている紙の原料は、主に北米や北欧の針葉樹（植林樹木）です。この針葉樹は、伐採されて主要な部分は住宅や家具などに使われますが、残った端材やおが屑などから紙や牛乳パックの原料である良質のパルプが作られます。特に牛乳パックに使われるパルプは繊維が長く、しかも古紙が含まれないバージンパルプであることから、大変良質な製紙原料と言えます。工芸研究室では、牛乳パックからパルプを取り出して和紙や葉書きを作る教材研究などを行っていますが、それ以外にも今回の環境報告書 2011 で取り上げたようなパルプを使った立体作品を作るための研究も行っています。



【幼児期における環境教育】

附属幼稚園 平松 章予

幼児が、自然の美しさや不思議さなどに直接触れる体験を積み重ね、自然が好きで大切に思う心、好奇心・探求心や考える力、多様性を認める寛容な心などを身に付けていくことが非常に重要です。地球規模での環境問題の広がりに伴い、幼稚園においても自然やものとの出会いを通して、生命やものを大切にする気持ちを育てていくことが求められ、幼稚園の園庭環境は幼児の直接体験の場として重要となっています。



b. 環境コミュニケーション

環境活動に
参加し快適な
キャンパス
ライフへ！

【キャンパスミーティング】

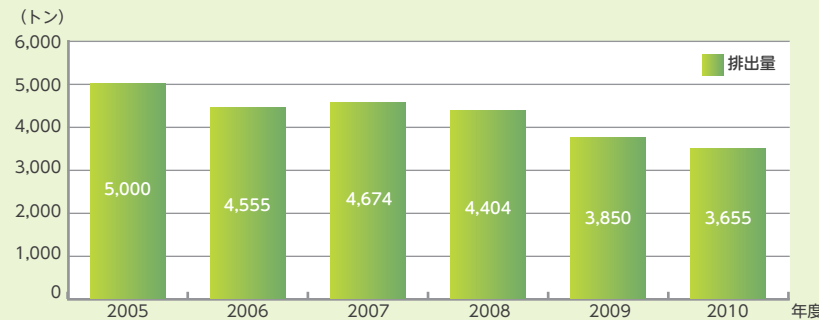
年に一度、全構成員（教職員・学生）が自由参加で一堂に会し、学内の諸問題について意見交換をしています。事前に学生らに「もの申すシート」を配布、寄せられた 227 件の意見・質問などを基に各担当理事が主な意見を紹介し、大学の対応などについて説明をしました。



c. 環境への配慮

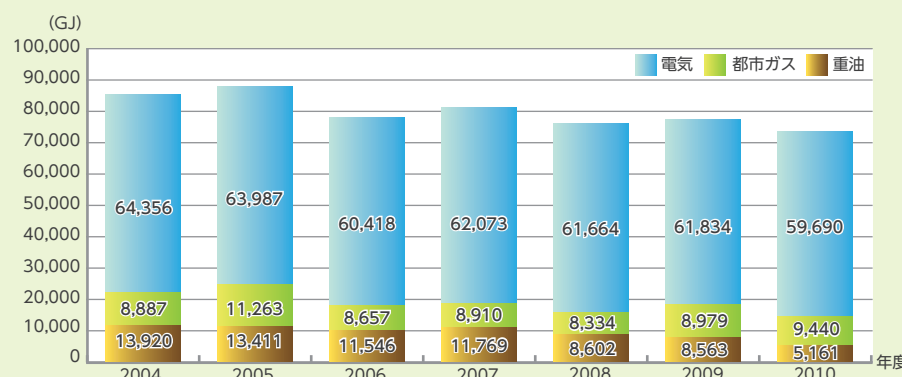
環境重視の
エコキャンパスへ！【二酸化炭素(CO₂)排出量】

2005 年度に比較して 2010 年度では -26.9% を、また対前年度比では、2010 年度日本列島を襲った記録的猛暑にもかかわらず -5.1% を達成できました。



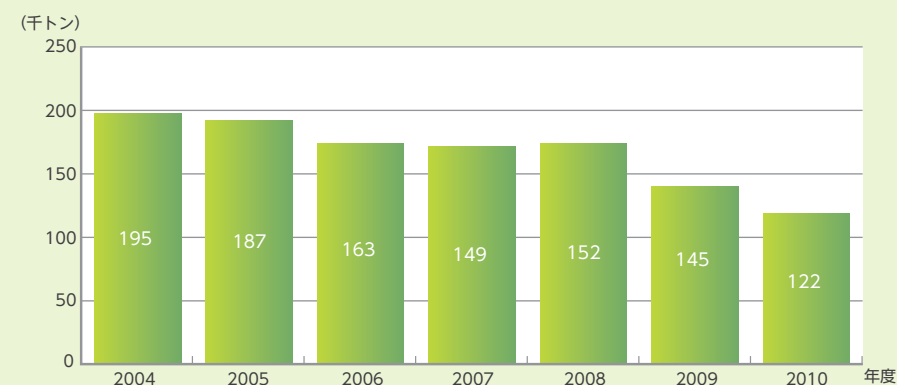
【総エネルギー投入量(GJ)】

本学の過去 7 カ年の総エネルギー投入量 (GJ) をみると、2005 年度が最大で、2006 年度は減少しましたが、2007 年度に再び増え、2008 年度に再び減少しました。しかし 2009 年度に増加傾向を示し、2010 年度は、前年度の問題点を分析し、さらなる省エネ意識を持って活動を進めた結果、過去最小の総エネルギー投入量にできたことは、大きな成果です。



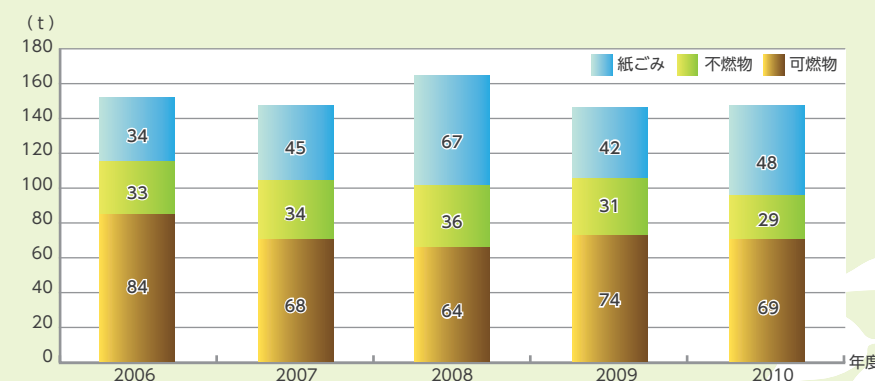
【水資源使用量状況】

本学の給水使用量は、トイレ等の節水対策や節水啓発活動で年々減っていました。しかし、2008 年度にプール使用の増加やグラウンドの漏水などの影響で増加に転じ、2009 年度はその改善を行い減少しました。2010 年度は、さらなる節水対策や漏水監視のため、メーター設置を細分化させ迅速な対応を心掛けた結果、かなりの減少を達成しました。2011 年度には、農業用水の利活用や地下水利用も開始します。



【ごみ排出量状況】

主な廃棄物の排出量は、近年ほぼ横ばいの状況で推移していますが、増えないように注意喚起をしています。



【環境ミーティング】

大学の環境目標・計画や環境報告書及び学生主体の環境活動について、学生と教職員等とが話し合う場が、環境ミーティングです。毎年数回開催されます。2010 年度は、学生が行っている学内クリーン活動の報告、弁当容器回収ボックス設置案等について意見が出されました。またごみ対策とリユース・リサイクルの推進、構内全面禁煙についても話し合いました。



【構内全面禁煙実施に向けて】

2011 年度より構内全面禁煙になりました。保健環境センターを中心に、従来の構内分煙から全面禁煙にスムーズに移行できるように、①肺機能検査②禁煙のための講習会③啓発・周知のためのポスター掲示④産業医による個別相談等を行いました。

分別カードを
持ち歩こう！財布等に入れて、いつでも確認
できるようにしておきましょう。

●教育研究活動から出る廃棄物●

種類ごとに分別して専用集積所に運ぶ

運ぶ前に教職員に
聞いてください

●古紙(新聞・OA ペーパー等)

●実験系廃棄物、薬品類、薬品汚染物、実験廃液、原材料系廃棄物、粗大ごみ
(ガラス・プラスチック器具・試験容器・金属くず等)